

平成24年度事業報告書

1 平成24年度事業の概要

平成24年度は、公益財団法人に移行した初年度であり、事業及び法人業務とも、公益法人継続のための取組みを進めた。

公益目的事業においては、地球温暖化対策、生物多様性の確保、良好な生活環境や地域交流、防災等の面でますます重要となっている都市の緑を保全・創出するため、京都市緑の基本計画及び第1次京（みやこ）のみどり推進プラン等に基づく活動を推進した。都市緑化に関する講習会、自然に親しむ体験活動、希少種の保全に関する普及啓発活動、緑のイベントの開催、公園緑地の利用促進、庭園文化の情報発信等を実施した。

指定管理事業については、梅小路公園における京都水族館のオープン（平成24年3月）への対応、宝が池公園子どもの楽園における平日の活動等の事業の拡大に努めた。

法人業務に関しては、公益法人会計・税務の対応を進めるとともに、評議員会を2回、理事会を4回開催した。役員体制は、理事長の村田清理事が平成25年3月28日に退任して、学識経験者の森本幸裕理事長に替わり、新たなスタートを切った。

財務に関しては、収入面で、京都水族館オープンに伴う自動販売機収入の増加、にぎわい創出事業の開催による新たな収入等、収益事業の増収が得られた。支出面では、引き続き人件費、委託費等の緊縮的な予算執行に努めた。その結果、23年度に引き続き、収支差額は黒字となった。

2 平成24年度の事業実施状況

※事業項目の「推進プラン事業」は京都市「第1次京（みやこ）のみどり推進プラン」の事業を指す。

I 公益目的事業

I-1 都市緑化の普及啓発、緑化意識の向上及び緑豊かなまちづくりに寄与する事業

決算額 161,273 千円 （予算額 161,587 千円）

うち京都市補助金 決算額 34,301 千円（予算額 34,401 千円）

京都の都市緑化の普及啓発、緑化意識の向上及び緑豊かなまちづくりを目的として、管理運営する公園等を拠点として、各地域において、講習会、イベント、広報その他様々な事業を行う。

(1) 緑の学校の開設と人材育成 <推進プラン事業番号 46-1, 51-1>

緑化に関する各種の講習会を実施した。特に24年度は、新規・既存の講習会（※）をカリキュラムとし、緑のボランティアリーダー（(6)ウ関連）を育成する「緑の学校」をスタートした。

※ア a「園芸講習会（前期・後期）」、イ「花壇づくり講習会（前期・後期）」、エ「庭づくり（ガーデニング）講習会」の3つの講習会（原則2年以内での修了）

ア 園芸・造園関係の講習会等

a 園芸講習会

市民を対象として、園芸、造園など緑化に関連する技術・知識の普及を図った。

- ・ 講師 協会花と緑の普及員 駒井修
- ・ 受講者 前期 34 人，後期 34 人 ・参加者数 9 回計 297 人
- ・ 受講料 前期 4,000 円，後期 3,000 円
- ・ 各回の実施内容

	回	開催日	実施内容
前期	第 1 回	4 月 19 日	鉢植え用土の使い方と一年草苗のポット上げ
	第 2 回	5 月 17 日	ハーブを使った寄せ植え，ハーブの育て方
	第 3 回	6 月 21 日	観葉植物の育て方と観葉植物を使った鉢植え
	第 4 回	7 月 19 日	草花の夏越しの方法
	第 5 回	8 月 9 日	多肉植物の育て方と鉢植え
後期	第 1 回	10 月 18 日	秋咲き野菊を使った寄せ植え
	第 2 回	11 月 22 日	秋植え球根と冬咲き草花の寄せ植え
	第 3 回	12 月 20 日	クリスマスの植物と寄せ植え
	第 4 回	1 月 17 日	冬季に行う土づくりと様々な植物の冬越し

(23 年度は前期・後期の各 5 回シリーズを実施。)

b 季節を楽しむ園芸教室の開催

シリーズで学ぶ講習会とは別に、園芸で四季を楽しむことができる教室・講習会を実施した。

教室名	開催日	講師	受講料	参加人数
ニホンサクラソウを育てよう	4 月 21 日	原田弘種 (協会)	900 円	16 人
苔玉づくり講習会 (2 回)	10 月 8 日	原田弘種 (協会)	500 円	34 人
苔玉づくり体験コーナー (下京ふれあい広場)	11 月 11 日	梅小路公園花と緑の サポーターの会	500 円	16 人
正月の寄せ植え教室	12 月 21 日	原田弘種 (協会)	3,000 円	25 人
梅のミニ剪定講座 (4 回)	3 月 2 日	野杖勝俊 (協会)	無料	68 人
春の寄せ植え教室	3 月 20 日	原田弘種 (協会)	2,000 円	40 人

(23 年度は 5 回実施。)

c 出張園芸講習会等

まちなみ緑化支援事業 ((5)ア) 関連の普及活動として、また、地域団体や京都市からの開催の要請を受け、地域に出張して講習会等を実施した。

場所/テーマ	開催日	講師	参加人数	備考
島原のぞみデイサービス (下京区) / 夏花への植替え	6 月 8 日	駒井修 (協会)・寺田裕美子 (園芸療法士)	17 人	まちなみ緑化支援
菊浜連合会 (下京区) / 六軒橋・正面公園の緑化	12 月 6 日	駒井修 (協会)	30 人	まちなみ緑化支援

島原のぞみデイサービス（下京区）／冬～春の草花	12月13日	駒井修（協会）	23人	まちなみ緑化支援
皆山地域女性会（下京区）／正月の寄せ植え	12月21日	駒井修（協会）	30人	受講料 3,000円
平成の京町家展示会場（下京区）／ミニ盆栽づくり	3月31日	駒井修（協会）	8人	受講料 700円

イ 花壇づくり講習会

公共の花壇づくりを中心に、設計や植付け等のグループ作業を通じて、グループで行う緑化活動の基本をシリーズで学んだ。24年度は宿根草・多年草の活用を主なテーマとした。

- ・講師 協会花と緑の普及員 駒井修
- ・受講者 前期15人、後期11人 ・参加者数9回計98人
- ・受講料 前期4,000円、後期3,000円
- ・各回の実施内容

	回	開催日	実施内容
前期	第1回	4月19日	夏花壇の植付け（モデル花壇）
	第2回	5月17日	花壇の歴史・形態・設計手順
	第3回	6月21日	秋花壇用播種／花壇の管理
	第4回	7月19日	秋花壇の計画・デザイン
	第5回	8月9日	秋花壇の設計／修了式
後期	第1回	10月18日	秋花壇の植付け（モデル花壇）
	第2回	11月22日	冬花壇の計画・デザイン
	第3回	12月20日	冬花壇の設計
	第4回	1月17日	冬花壇植付け

（23年度は5回シリーズを1期実施。）

ウ 緑とまちづくり講座

緑とまちづくりに関連する近年の主なトピック又は課題（地球環境問題、京都市緑の基本計画、園芸療法・福祉等）について、3回シリーズで学んだ。（24年度のみ開催。）

- ・受講者 29人 ・参加者数3回計79人
- ・受講料 2,000円
- ・各回の実施内容

回	開催日	講師	内容
第1回	6月20日	京都市地球温暖化対策室，原田弘種（協会）	地球環境問題と京都の対策事業／緑のカーテンづくり（講義・実習）
第2回	7月18日	京都市緑政課，藤井肇氏（大原野森林公園園森の案内人）	緑と景観（緑の基本計画，緑視率の導入等）／希少種保全と生物多様性（西山の自然）

第3回	8月22日	寺田裕美子(米国園芸療法士 HTR)	園芸療法・園芸福祉とまちづくり
-----	-------	--------------------	-----------------

エ 庭づくり（ガーデニング）講習会

おもに家庭などでの身近なガーデニング(庭づくり)について、計画の立て方から造成、植栽、維持管理、庭での楽しみ方まで、講師との対話形式で学んだ。

- ・講師 協会花と緑の普及員 野杵勝俊
- ・受講者 23人 ・参加者数6回計115人
- ・受講料 4,000円
- ・各回の実施内容

回	開催日	実施内容
第1回	9月14日	自分で造る家庭の庭づくり（観賞の庭・実用の庭）
第2回	9月28日	庭づくりの構想とデザイン
第3回	10月12日	庭の造成と植栽，修景植栽
第4回	10月26日	庭の維持管理（Ⅰ）庭木の手入れ（剪定）等
第5回	11月9日	庭の維持管理（Ⅱ）草花の手入れ等
第6回	11月30日	庭での楽しみ方「ガーデンライフ」

オ 緑の散策ツアー <推進プラン事業番号 38-2>

広報誌「京のみどり」に連載している特集記事との連動企画として、市内各地のまちなかの緑のスポットを訪ね歩く散策を通じ、緑にかかわる歴史文化や快適な生活環境づくりの取り組みを考える機会を提供した。24年度は健康ウォーキングの要素も採り入れた。

- ・講師 地域の歴史・文化に詳しい専門家等
- ・各回の実施内容

回	開催日	コース／講師	参加者数
第1回	5月27日	下京区（西本願寺→小坂公園→島原大門→まちなみ緑化事例→島原住吉神社→梅小路公園朱雀の庭）／駒井修（協会）、宮本彩（健康運動指導士）等	22人
第2回	11月23日	西京区大原野（東海自然歩道→金蔵寺→善峯寺→三鈷寺→十輪寺。桂駅まで送迎）／藤井肇（大原野森林公園森の案内人）、金蔵寺住職、三鈷時住職等	14人 (雨天)

(23年度は2回実施)

(2) 自然環境に関する講習会・体験活動

ア 体験型講習会，自然観察会等 <推進プラン事業番号 47-3，52-7>

a 梅小路公園自然観察会の実施

様々な生き物に親しみ、自然の仕組みを理解していただくことを目的として、ビオトープ「いのちの森」をはじめとする公園内での自然観察会を実施した。

講師は、京都ビオトープ研究会（森本幸裕代表）いのちの森モニタリンググループ協会職員等。

①月例等定期の観察会

- ・参加料 無料（別途いのちの森入園料 200 円。グリーンフェア時は無料。）
- ・各回の実施内容（計 14 回・参加者計 217 人）

開催日	テーマ	開催日	テーマ
4 月 21 日	植物の観察 1	10 月 14 日	グリーンフェア観察会
5 月 3 日	グリーンフェア観察会	10 月 20 日	越冬昆虫の観察 1・こも巻き
5 月 19 日	植物の観察 2	11 月 17 日	植物の観察 3
6 月 16 日	きのこの観察	12 月 15 日	冬鳥の観察
7 月 21 日	昆虫の観察 1	1 月 19 日	越冬昆虫の観察 2
8 月 18 日	昆虫の観察 2	2 月 16 日	公園内の植物管理
9 月 15 日	植物の観察 4	3 月 16 日	植物の観察 5

（23 年度は 14 回実施。）

②子ども緑の学校～梅小路公園子ども自然観察会（京都南ロータリークラブ共催）

京都南ロータリークラブの新世代奉仕活動とタイアップし、子ども向け自然観察会をシリーズ化して開催。山野草のミニ観察花壇への植え付け、いのちの森周辺の自然観察等を行った。京都南ロータリークラブからは、オリジナルノート、山野草苗等の提供を受けた。

- ・講師 いのちの森モニタリンググループ（田端敬三氏ほか）、小谷尚江（協会プレイパークリーダー）
- ・対象 小学生（一般公募、公園周辺小学校・児童館）
- ・受講料 無料（いのちの森入園料も無料。）
- ・各回の実施内容（参加者数 3 回計 109 人）

回	開催日	内 容／特別講師
第 1 回	12 月 1 日	観察花壇への植えつけ、フジバカマと海をわたる蝶のお話、「ぼくの木・わたしの木」を選ぼう／西新治（KBS 京都・藤袴プロジェクトリーダー）
第 2 回	1 月 19 日	いのちの森に行こう、こも巻きの中で冬越しする虫の観察
第 3 回	3 月 9 日	河原で観察して遊ぼう、花壇の観察とナデシコの種まき／曾和治好・京都造形芸術大教授・同研究室

（23 年度は夏休み企画「ザリガニ釣り」として 1 回実施。）

③ 団体向け観察会

開催日	団体名	内 容	参加人数
6 月 12 日	寝屋川市教育委員会（自然資料施設運営スタッフ）	いのちの森・朱雀の庭の成り立ち等の説明	6 人
7 月 6 日	梅小路小学校（1・2 年生）	公園内で「マイツリー」探しをするため 7 樹種を紹介	44 人
11 月 27 日	梅小路小学校（1・2 年生）	上記「マイツリー」の秋の変化の様子	44 人

12月5日	西賀茂中学校	自然と共生をテーマとした 総合学習での説明	5人
-------	--------	--------------------------	----

(23年度は2回実施)

b 宝が池公園自然あそび教室

宝が池公園子どもの楽園プレイパークゾーンでの自由な遊びを中心とする通常のプレイパーク活動（(4)ウ参照）とは別に、ゾーンとその周辺の自然環境を生かし、子どもたちが遊びながら学べる教室を実施。自然素材を使ったクラフト、自然の仕組みを学ぶ遊びのほか、(財)京都市埋蔵文化財研究所の協力により、古くから自然と共生してきた地域の生活文化を学ぶ教室等を開催。夏休み期間中には、特別プログラムとしてキャンプ等も実施した。

- ・開催日 原則隔週土曜日 ・実施回数 計25回（23年度は31回実施）
- ・のべ参加人数 407人

イ 環境学習養成講座

体験型の環境学習の活動を支える人材（リーダー）の養成を、学習会や子ども向けプログラムの実践を通じて行った。

- ・「人と自然をつなぐ～環境学習リーダー講座」（6月30日～7月1日）
- ・講師 新田章伸（里山倶楽部副代表理事）
- ・受講者 6人 ・受講料 一般1,500円、学生1,000円

ウ 公園・庭園の樹木と対話する教室（24年度新規）

毎回テーマを変え、梅小路公園内を歩きながら、公園・庭園の樹木等の植物、公園・庭園の成り立ちについて解説する教室。植物の名前の由来、生活での利用方法から、造園のコンセプトに基づいた景の見方まで幅広く解説を行い、植物や緑の文化に親しんでいただいた。（24年度新規）

- ・開催日 24年6月から25年3月までの原則第1金曜日
- ・実施回数 計10回
- ・講師 野杵勝俊（協会相談員・花と緑の普及員）
- ・受講者 計84人 ・受講料 無料（ただし、庭園に入る場合は別途入園料。）

(3) 緑の相談所運営

ア 相談業務

a みどりの相談

相談を通じて園芸等の知識を高め、緑化推進を図るため、平成10年度以降、無料の相談業務を行っている。平成23年度から、相談所を本部事務所とともに円山公園内に移転したが、公園利用者層の大半が観光客ということもあり、面談による相談者が大幅に減少した。このため24年度は、週2日の相談日のうち、1日分を梅小路公園「緑の館」の仮設ブースで行った。

- ・相談日 毎週2日（水曜日、土曜日）及びイベント等での出張相談
- ・時間 午前10時～午後4時まで（面談、電話、FAXによる）
- ・場所 水曜日：梅小路公園「緑の館」 土曜日：円山事務所内相談スペース

- ・実績 相談日数 105 日
相談件数（内容別） 824 件（うち面談による相談 40%）
（平成 23 年度は相談日数 90 日 702 件，うち面談による相談 34%）

b 出張相談

緑に関する活動を行う地域団体等の要請を受け，出張相談を行った。

団体名	開催日	人数	場 所
朱雀第 4 小学校（中京区）	5 月 31 日	5 人	ビオトープ池・植栽の管理
北山フラワーストリート委員会 （北区・左京区）	8 月 10 日	3 人	新しい緑化活動の検討

c 相談所データベースの導入とホームページでの発信

相談データの蓄積，事務所分散に対応した情報管理の必要性から，相談記録を電子データ化し，記録の検索や集計等ができる相談所データベースを平成 23 年 1 月から運用している。24 年度はホームページ「相談所だより」に追加掲載するため，相談データの入力を 3 年間遡及して進めた。

イ 希少植物の保全・普及

市民団体，園芸家，京都放送（KBS 京都）等のご協力により，希少な在来種を含む和花等の展示を梅小路公園で行ったが（（4）ア b 参照），協会も原種フジバカマ等希少種の育成・繁殖に取り組んだ。

(4) 緑のイベントの開催及び支援

ア みどりの月間，都市緑化月間等のイベントの開催，協力

みどりの月間（4～5 月），都市緑化月間（10 月）に，「守ろう！古都の自然」キャンペーンとして，グリーンフェア春／秋，春の和の花展，藤袴と和の花展などの様々なイベントを実施した。

a 梅小路公園グリーンフェア 2012 春／秋

爽やかなみどりや広々とした空間など公園のもつ心地よさ，安らぎ，にぎわいを多くの市民に感じていただくために，春と秋の 2 回実施した。

開催日		天候	来場者数
春	5 月 3 日（木・祝）	曇一時晴	20,000 人
	5 月 4 日（金・祝）	曇	22,000 人
秋	10 月 13 日（土）	晴れ	17,000 人
	10 月 14 日（日）	晴れ	23,000 人
計			82,000 人

※ 春・秋とも「京の朝市」と同時開催。

※ 10 月 14 日は京都市食の安全安心啓発イベントと開催。

（23 年度は 4 日間計 56,000 人）

b 春・秋の和の花展

梅小路公園朱雀の庭を会場に，自然保護団体や園芸家の協力により，絶滅危惧種を含む山野草，古典園芸植物等を屋外展示するとともに，イベントを行い，身近な自然環境を守る大切さを訴えた。

①春の和の花展（第 3 回）

- ・期間 4月14日から5月6日(20日間)
- ・京都三山の絶滅危惧種を含めた和の花等約130種330鉢を展示
- ・イベント お茶席(4月29日), 木で工作しようコーナー, 山野草展示即売会(5月3日, 4日)等
- ・入場者数 2,570人

②藤袴と和の花展(第4回)

(株)京都放送「守ろう!藤袴プロジェクト」をきっかけに平成21年度から開催。府下では絶滅危惧種である原種フジバカマ220鉢をはじめ,山野草,水草等を多数展示した。9月も猛暑が続き,花期が短かったためか,フジバカマの蜜を求めるチョウ・アサギマダラの飛来は少数にとどまった。初めての試みとして,絶滅危惧種の保全を進める京都府立植物園コレクションの展示等を初めて行った。また,京都三山の景観保全に取り組む京都洛東ロータリークラブが主催する講演会を後援し,「藤袴と和の花展」との広報等の相互協力を行った。

- ・主催(共催) 緑化協会・(株)京都放送
- ・期間 9月22日から10月8日まで(15日間)
- ・京都三山の絶滅危惧種を含めた和の花等約160種510鉢を展示。
- ・イベント 国産のムラサキを使った染め教室(9月23日), Swingtee'sライブ(9月29日), 香老舗 松栄堂「水尾より届いた藤袴の香り」(10月6日), 渡りの蝶アサギマダラを写そう, 山野草展示即売会(10月7~8日), 和の植物を使ったオリジナル苔玉づくり(10月8日)等
- ・展示コーナー ①京都府立植物園コレクション~絶滅危惧種の生育地外保全における植物園の役割~, ②嵯峨水尾~藤袴と和の花のまちづくり
- ・入場者数 1,760人

<連動企画> (緑化協会及び(株)京都放送後援)

京都洛東ロータリークラブ創立25周年事業「今,京都の山々が危ない!」

- ・内容 自然との共生を訴える著名人による講演会。
- ・開催日 9月29日(土) ・場所 京都産業会館8階 シルクホール
- ・講師 涌井雅之氏(造園家,東京都市大教授), ベニシア・スタンリー・スミス女史(ハーブ研究家)
- ・入場者数 800人

C 梅まつり in 梅小路

梅小路公園内にある梅林(約140本)をPRするため,下京区役所と協力し,初めて開催した。期間中,床几を置くなどして,ゆっくり鑑賞していただけるよう工夫した。

- ・期間 平成25年3月1日~10日
- ・イベント 梅の剪定ミニ講座(3月2日),「ひなまつりだ!アートだ!」(簡単な楽器を作りプロの音楽家とセッション。3月3日), お茶席(3月3日)

d 京都まちとみどり写真コンクール

緑あふれるまちづくりを推進する第28回「京都まちとみどり写真コンクール」を共催した。計539点,190人の応募があり,このうち37点が入賞・入選した。新たに若年層を対象とした「奨励賞」を設けたこともあり,30歳代までの世代の割合が増えた。入賞・入選作品は,梅小路公園「緑の館」で展示された後,京エコロジーセンター,けいはんな記念公園,京都府庁など府内5か所で巡回展示された。

- ・主催 京都府都市計画協会主催
- ・共催：京都府，京都市，（財）京都府公園公社，（財）京都市都市緑化協会，（社）京都府造園建設業協会
- ・表彰式 10月13日（梅小路公園「緑の館」）

e 宝が池シンポジウム～宝が池の森の今・未来を考える～

人間が山の糧を利用しなくなる一方，ナラ枯れやシカ害などにより急激に森林の生態系が変化し，京都三山共通の問題となっていることから，宝が池周辺の山を題材に森のあり方を考え，意見交換を行う場としてシンポジウムを開催した。協会からは，宝が池公園子ども楽園周辺での自然学習・自然遊びの活動を，森への関わり方を次世代に伝えていく取組みとして報告した。

- ・主催（共催） 緑化協会・京都府立大
- ・開催日 平成25年1月13日 ・場所 京都府立大6号館
- ・話題提供者 田中和博（京都府立大教授），高原光（京都府立大教授），小林正秀（京都府立大特別講師），長島啓子（京都府立大助教），野田奏栄（緑化協会宝が池プレイパーク世話人），小椋純一（京都精華大教授）
- ・内容 （第1部）宝が池の森の現状と課題を知る（調査研究報告），（第2部）森の未来にむけて～利用と管理について考える（グループ討議）
- ・参加者数 約90人 ・参加費 無料

f 地域イベントへの参加

区民まつり等に市民団体と協会が共同で出展，または出展を支援し，園芸体験コーナーを設ける等の活動を行った。

イベント名	開催日	場 所
堀川・桜まつり	4月 8日	堀川河川敷（一条戻橋～押小路橋）
中京区民ふれあいまつり	10月 28日	中京中学校グラウンド
下京区ふれ愛ひろば	11月 11日	梅小路公園

イ 「みどり」に関連した多彩な教室の開催

a 草木染めを使ったパッチワーク教室

梅小路公園の植物を材料にした草木染め（サクラ剪定枝等）の布を使い，パッチワークを制作。受講者数は，各期とも午前の部・午後の部各20人。

- ・講師 池田由美子
- ・第1期 開催日 6月21日，7月12日，7月26日，8月23日，9月13日
- ・第2期 開催日 9月29日，10月6日，13日，27日，11月10日
- ・23年度分 4月12日
- ・のべ実施回数 22回（23年度は26回） ・のべ参加者数 488人

b 木登り体験会（ツリークライミング®体験会）

- ・指導 ツリークライミング®ジャパン
- ・開催日 4月29日，5月3日，4日，6月24日，7月29日，8月26日，10月13日，10月14日，11月25日，12月23日

- ・実施回数 10 回（23 年度は 11 回）
- ・参加者数 のべ 100 人

c 梅の実採り体験

梅の実の盗難防止を兼ね、事前告知を行った上で、採取を体験していただいた。

- ・協力 梅小路公園花と緑のサポーターの会
- ・開催日 6 月 5 日
- ・参加者数 114 人

(5) まちなか（市街地）緑化事業

ア 和花等を生かしたまちなみ緑化 <推進プラン事業番号 43-9>

緑視率の向上と町並み修景を図るため、和花や和の花のイメージの植物を主体とするコンテナを街路沿いの狭いスペース等に設置し、施設利用者や地域住民に管理していただき、協会が出張講習等の技術的支援を行うまちなみ緑化支援モデル事業を 23 年度に始めた。24 年度は、下京区菊浜学区の高瀬川沿いで新たに取り組んだ。

①島原のぞみデイサービス敷地内（下京区西新屋敷中之町、23 年度からの継続）

- ・花飾りの内容 「花矢来」4 基、ハンギングバスケット 6 基、地植え花壇
- ・支援内容 植替え 3 回（うち 2 回は花に親しむ講習会を実施＝（1）ア c 参照）

②菊浜学区（下京区）「花回廊づくり」の支援

- ・花飾りの内容 六軒橋東詰（ワイヤートレリスラティスにハンギングバスケット 10 基新設）及び高瀬川正面公園（手すりにハンギングバスケット 10 基新設、既存プランター 15 基の全面植替え）
- ・支援内容 ラティス設置、花飾りのデザイン、植え付け・管理指導（花に親しむ講習会を実施＝（1）ア c 参照）

イ 御池通スポンサー花壇等の地域の緑化の推進

a 御池通スポンサー花壇活動への支援業務の事務局業務

契約方式の見直しにより、24 年 6 月まで行った。（6）ア a 参照）

b 堀川せせらぎ第二公園・第三公園でのコスモス育成の支援

堀川と堀川通りを美しくする会（京都市街路樹サポーター）が堀川通中央分離帯の公園内で試行的に行うコスモス育成に協力し、京都市との調整の上、耕起・整地、コスモス種子等の提供、播種作業の指導を行った。草丈を数十 cm に抑える必要があり、播種時期を遅らせた（8 月 24 日）が、花つきは悪かった。

(6) 緑の団体支援

ア 「京都みどりのサポーター協議会」の運営

各地で緑化を担う緑の活動団体と本協会が協働で緑化を進めるための組織「京都みどりのサポーター協議会」を運営した。

- ・参加団体 梅小路公園花と緑のサポーターの会（岩永忠正代表）、中京・花とみどりの会（西村勇代表）、NPO 法人地域社会の環境保全と科学技術の振興を目指す会（通称 E/S を目指す会）（飯井基彦理事長）、小野芙蓉会（谷中登美行代表）、京都みどりクラブ（谷久美子代表）
- ・会長＝西村勇、副会長＝岩永忠正

a 御池通スポンサー花壇の沿道「サポーター」への支援

御池通を沿道企業等のスポンサーの寄付により四季の花で彩る京都市御池通スポンサー花壇事業（花壇基数 102 基）で、日常の手入れを担う沿道の事業所等の「サポーター」の活動を補助・支援する業務は、契約方法の見直しのため、平成 24 年度の新規契約（7 月以降）は行わず、24 年度の活動は 4～6 月のみ行った。

- ・実績 植替え（5 月 24 日）、巡回管理計 35 回（協議会及び協会）。

b 地域イベントへの出展（(4)アf 参照）

イ 緑の活動団体登録制度（ボランティアセンター）の準備

ボランティアベースの緑の活動団体（各種ボランティア団体、町内会・自治会、企業、学校等）の人材、ニーズに関する情報交換を行い、技術支援や協働の取組みを推進するための拠点「緑のボランティアセンター」は、梅小路公園「休憩所」を改装して設置する計画であったが、平成 25 年 6 月着工の公園再整備の計画地内となり、設置場所を再検討することとなった。情報収集は 23 年度に引き続き行った。

ウ 緑の学校の運営と緑化リーダーの認定

前項イの団体登録制度と合わせ、協働の取組みや支援の効果を高めるため、「緑の学校」のカリキュラムを 2 年以内に修了した人（(1)ア参照）等を緑化リーダーとして認定する制度をスタートさせた。

- ・平成 24 年度中の修了者数 1 人

(7) 公園緑地の利用促進及び多目的な機能の向上に寄与する事業

ア 梅小路公園指定管理業務等の受託

京都水族館開業（平成 24 年 3 月 14 日）への対応として、京都市、オリックス不動産株式会社及び一般財団法人京都市都市整備公社等の関係団体と協議し、利用者の利便性向上及び安全確保、清掃活動の強化に努めた。各種イベントや梅小路公園だよりの発行等による利用促進を図った。

また、将来の公園再整備のため指定管理区域外となったふれあい広場、七条入口広場等は、指定管理区域と一体として管理するための維持管理業務を受託した。

a 各種展示会、イベントの誘致開催

- ・梅小路公園の持込みイベントの例

開催日	誘致・共催・協力イベント
第 1 土曜日	梅小路手づくり市（5 月、1 月を除く。23 年度は第 1 木曜日に開催。）
9 月 8 日	梅小路ふれあいコンサート（地元 4 学区の小中高校生、保護者等による交流コンサート）
9 月 9 日	レベレーションフェスタ（人権擁護啓発の交流イベント）
9 月 15～16 日	リレーフォーライブ（夜通しリレーを続け、がん撲滅を訴えるイベント）
9 月 22 日	京都音楽博覧会（京都出身バンド「くるり」を中心とした野外コンサート。協会特別協力）

9月30日	サンセット・チャリティ・コンサート in 梅小路公園 ベジタリアン・フェスティバル京都10周年
10月6～7日	市民ふれあいステージ
10月20日	ほほえみ広場2012（障がい者団体交流イベント）
10月21～22日	京都九条ねぎフェスティバル
10月27日	京都やんちゃフェスタ2012～梅小路公園に児童館がやってくる！！
11月11日	下京区ふれ愛ひろば
12月2日	京炎！そでふれ！祭

イ 宝が池公園子どもの楽園指定管理業務の受託

子どもの楽園の指定管理者としての管理運営は2年目であり、多様な事業の充実に努めた。駐車場利用は23年度比9.4%増となった。

また、親水施設の小まめな清掃、プレイパークゾーン法面の侵食やナラ枯れ被害木の監視、健康被害を及ぼす恐れがある特定外来生物セアカゴケグモ（ヒメグモ科、*Latrodectus hasseltii*）の点検・駆除（※）等、子どもや家族連れが安全・安心に過ごせるよう、管理を行った。

（※）平成24年9月9日、セアカゴケグモが子どもの楽園において初めて見つかри、保健センター等の指導を受け、注意看板設置、職員及び専門業者による一斉駆除を実施した。その後も職員が点検、駆除を行っているが、被害は生じていない。

ウ プレイパーク事業

a 梅小路公園プレイパーク

「あそびのリーダー」となる大学生等のボランティアを中心に運営を組織し、毎月2回、定例の活動を実施した。夏休み夜間の「肝だめし」、正月遊びなど季節にちなんだプログラムも数多く採り入れた。

- ・活動日 第2・第4土曜日
- ・実施回数 定例活動、特別企画及びやんちゃフェスタ等での実施 計25回
(23年度は26回)
- ・参加者数（子ども・保護者） 計4,460人
- ・あそびのリーダー数 計269人

b 梅小路公園ミニ・プレイパーク

幼児と保護者、または小学生を対象として、小人数による自然遊びやものづくり体験等を行い、公園を「居場所」として感じていただくことや、自然に親しみを感じていただくための「ミニ・プレイパーク」を行った。

- ・活動日 原則火曜日午前または金曜日放課後
- ・実施回数 22回（23年度は25回）
- ・参加者数 のべ475人

c 宝が池公園子どもの楽園プレイパーク

子どもの楽園におけるプレイパーク事業は、22年度までは受託事業であったが、23年度より自主事業として実施している。季節にちなんだ遊びも行った。

- ①通常プレイパーク（自然あそび教室除く） 44回（23年度44回）
- ・活動日 日曜・祝日

・参加者数 のべ9,161人

②特別イベント

- ・5月5日(土・祝) ちびっこまつり 300人
- ・11月10日(土) 左京子どもふれあいカーニバル(左京区「人づくり」ネットワーク実行委員会との共催)
- ・11月25日(日) どんぐりまつり(遊びのコーナー全体)2,500人

③けむんぱクラブ(宝が池ミニプレイパーク)の新設

平成24年8月まで「宝が池ミニプレイパーク」として、平日におもに幼児を対象に自由参加で試行。平成24年9月からこれを登録制とし、4歳児までの乳幼児と保護者(親子)を対象に、森の散歩やもの作り等を通じて、親子や参加者間のつながりを深めるプログラムとして開始した。

- ・開催日 毎月第2金曜日、第4火曜日(2クラス)
- ・実施回数 計23回(うち、けむんぱ14回) 参加者数170人

エ 公園ボランティアの運営、連携、支援 <推進プラン事業番号 52-7>

a ボランティア組織「梅小路公園・花と緑のサポーターの会」の運営

平成19年、花壇づくり講習会の修了生の希望者を中心として活動するボランティア組織として発足。週2回の定例作業日に園内の花壇等の植栽の手入れを行うほか、講習会の運営補助、公園内外の普及啓発イベントや緑化活動への協力等を行っている。

- ・会員数 平成24年度末現在51人
- ・実績 活動回数延べ133回、参加人数延べ1,289人
- ・キエフ市からの寄贈種子の活用

京都市の姉妹都市キエフ市(ウクライナ首都)から門川大作市長に寄贈された草花の種子を市内4つの緑の団体が預かり育てることとなった。サポーターの会は、梅小路公園で種子を育苗箱やポットで発芽させて育苗し、公園内花壇や宝が池公園子どもの楽園の花壇に活用した。この功績で平成24年度京都市自治記念式典で姉妹都市交流促進特別表彰を受けた。

- ・「葵プロジェクト」への協力

上賀茂神社境内のフタバアオイ畑周辺の落葉を堆肥化し、活用する取組みを同神社、京都市ごみ減推進会議及び協会が行っており、サポーターの会が落葉回収等の作業協力を行った(平成25年1月29日)。

b 梅小路公園内「花と緑のセラピーガーデン」活動

「セラピーガーデン」は車イスの方も利用できるレイズドベッドを設置するなど、バリアフリーに配慮した施設であり、身体障がい者を含むボランティアが手入れ活動を行った。

- ・指導 園芸療法士(米国HTR) 寺田裕美子氏
- ・活動日 第2・第4木曜日 計24回 のべ141人参加

c 社会体験活動の受入れ

市立白河総合支援学校の生徒の社会体験活動を受け入れた。

- ・期間 6月26日～28日(6人)、7月3日～5日(6人)
- ・内容 公園の花壇管理(サポーターの会との共同作業)・清掃等

オ 青空健康づくりプログラム（ウォーキング教室） <推進プラン事業番号 18-3>

だれもが気軽にできる運動を中心とする健康増進プログラムとして、梅小路公園の芝生広場でウォーキング教室を開催した。23年度1月より試行的にスタートし、24年度は年間を通じて実施した。下京保健センターが推進する健康体操「メタボボックス」も公園内で実施しており、教室は下京保健センターとの共催として、相互の参加促進や広報等で協力を行っている。

- ・講師 健康運動指導士 宮本彩氏
- ・内容 ストレッチ、簡易体力測定、正しい歩き方指導、筋トレ、脳トレ等
- ・参加料 無料
- ・開催日 第2・第4火曜日 計24回 のべ1,081人参加

カ 円山公園巡回・案内業務

国の名勝であり市内有数の観光地である円山公園の施設の安全確認、樹木の枯損等の確認、サクラ開花や紅葉の状況等を含む各種の問合せ対応、案内を行う業務を京都市から受託して実施した。

(8) 広報・出版

ア 広報誌京のみどり（季刊）の発行

平成19年度より、市内各地の緑に親しんで歩いていただくためのウォーキングマップや緑を守り育てる地域・団体の取組みを紹介する特集「歩いて感じよう京のみどり」を掲載している。このほか、まちなみ緑化、園芸相談、協会事業、京都市の施策等の情報を紹介。

- ・各号の特集「歩いて感じよう京のみどり」の概要

第63号（夏号） 24年7月発行	「清滝川沿いに営まれる町 小野郷・中川周辺のみどりを歩く」（北区：（中川八幡宮、磨丸太倉庫群、岩戸落葉神社、日下部家住宅、龍澤寺、大森リゾートキャンプ場、小野郷地域まちづくり推進委員会等）
第64号（秋号） 24年10月発行	「移りゆく歴史の地 鳥羽離宮跡周辺のみどりを歩く」（伏見区：安楽寿院～北向山不動院～白河天皇陵～城南宮～鳥羽離宮公園～七瀬川、京セラ株式会社等）
第65号（冬号） 24年12月発行	「古の歴史を物語る 今熊野周辺のみどりを歩く」（泉涌寺、今熊野観音寺、剣神社、新熊野神社、今熊野エコ学区等）
第66号（春号） 25年3月発行	「人と緑のつどう町 出町周辺のみどりを歩く」（鴨川公園、天寧寺、御霊神社、本満寺、幸神社、出町商店街振興組合等）

- ・部数7,000部（第65号のみ、地元負担により1,000部を増刷。）
- ・配布場所・配布先 市政案内所、区役所・支所、市立図書館、公園愛護協力会、全国の緑化団体等

イ ホームページによる情報発信とスマートフォンサイトの開設

協会ホームページは、タイムリーな各種イベント等の情報提供に努め、アクセスが増加傾向にあったが、梅小路公園の京都水族館のオープン、京都鉄道博物館建設計画の発表等により、平成24年度のアクセス件数は大幅に増えた。また、梅小路公園に来られる方向けに、季節に応じた見どころ（花木等）の紹介、各種施設の案内を行うため、スマートフォン向けサイトを企画し、平成25年3月30日から公開した。

- ・アクセス件数 (Visits) 24年度 425,228件 (前年度比34.8%増)
- ※Visits (訪問者数) 30分以内の同一IPをカウントしない実質のアクセス数の指標。

ウ 自然遊びガイド「自然×あそびのススメ」の制作・発行

緑化協会が宝が池公園子どもの楽園・梅小路公園で積み重ねてきた自然遊びの各種のプログラムをもとに、幼児、小学生の保護者及び教育・保育関係者をおもな対象として、自然に親しみ、遊ぶことの重要性を理解していただくための入門ガイドとして、冊子「自然×あそびのススメ」を発行した。季節の自然遊びの方法、自然あそびをする子どもを見守る際の考え方や注意点等を、オリジナルの写真やイラストを多用してまとめた。子どもの楽園などに誘導することが第一の目的ではなく、自宅周辺・公園等の自然でも使える内容、広く自然あそびに関わる人材の養成に役立つ内容を盛り込んでいる。

- ・発行元 公益財団法人京都市都市緑化協会
- ・発行日 平成25年3月末 ・仕様 B5横版, 40頁, 全面カラー
- ・発行部数 2,000部

エ 「公園樹管理ハンドブック」制作等の受託

社団法人京都府造園建設業協会(府造協, 現・一般社団法人)は平成24年度, 公園樹管理の技術・技能の向上を目的として, 街路樹剪定士(一般社団法人日本造園建設業協会が資格認定)の資格を有する造園技術者を対象に, 研修を経て資格を認定する「公園樹管理士制度」を発足させた。公園のあるべき姿に基づき, 管理方針を提案できることを目指すのが特徴。府造協の委託を受け, 緑化協会は, 研修のテキストとなる「公園樹管理ハンドブック」の制作を担当した。また, 同研修への講師(テキスト執筆者)の派遣を行った。

①ハンドブックの内容

- ・目次 公園樹管理士制度発足にあたって／本ハンドブックの構成と使い方／
1章 公園樹管理士制度について／2章 公園樹に関する基本的事項／
3章 公園樹を育てる～公園樹管理計画／4章 公園樹の剪定～公園樹の
姿・形を整え景観を創る～／5章 公園樹の管理
- ・仕様 A4版, 78頁, 全面カラー ・発行部数 500部
- ・発行日 平成24年12月25日

②公園樹管理士認定研修会への講師派遣

- ・期日 平成25年3月23日(土) ・場所 京都商工会議所
- ・派遣講師 吉田昌弘(日本ランドスケープコンサルタンツ協会理事), 小林義樹(緑化協会アドバイザー)
- ・内容 講義及び京都市内の都市公園を事例とした演習

(9) 調査・情報収集

ア 植生調査等 <推進プラン事業番号 52-7>

- ・樹木の改善等適切な管理及び情報発信の基礎資料とするため, 梅小路公園いのちの森モニタリングへの協力, 子どもの楽園周辺のナラ枯れ木調査を行った。

イ 間伐材利用方策の調査・情報収集

ナラ枯れ材やスギ・ヒノキ等の間伐材を利用した各種製品（活性炭、土木資材等）を普及し、その収益を森林保全・再生につなげる仕組み（緑のプラットフォーム）づくりのため、ベンチャー企業との共同の調査や情報収集を行った。

・ナラ枯れ被害木・間伐材利活用の調査研究等に関する委託業務

公益財団法人京都産業21の中小企業技術開発促進事業〈産学公連携型〉の助成を受ける株式会社カーボテック（京都市左京区）から、ナラ枯れ被害木・間伐材利活用の調査研究等に関する委託業務を受託し、京都市等におけるナラ枯れ材・間伐材の利用方針及び調達の見通しについて報告書を提出した。また、カーボテック社のナラ枯れ被害木切出し現場での移動式製炭炉による木炭化実験（12月11日～14日、宝が池公園梅園付近）に立ち会った。

1-2 京都の庭園の保全管理、庭園文化・技術の継承及び発展に寄与する事業

決算額 21,153千円（予算額 19,790千円）

うち京都市補助金 決算額 2,600千円（予算額 0千円）

京都の庭園の保全管理、庭園文化・技術の継承及び発展に寄与することを目的として、庭園の保全管理業務、その中での庭園講座等への活用、及び優れた庭園に関する情報発信等を行った。

ア 梅小路公園「朱雀の庭」の良好な維持管理と運営

京都が長年培ってきた造園技術を用い、伝統と創生が調和した梅小路公園「朱雀の庭」について、管理保全指針に基づき、複数年契約による計画的な景観づくりに努めるとともに、新しい庭園の活用策としてイベント等を行った。

・紅葉まつり

ライトアップした梅小路公園朱雀の庭を延長開園した。下京区役所の広報協力もあり有料にもかかわらず、多数の人が来場した。（23年度は無料開放で1,515人。）

- ・期 間 11月23日～25日
- ・内 容 「朱雀の庭」の延長開園、おしるこ無料配布・販売コーナー等
- ・庭園入園者数 1,935人

イ 庭園情報の収集・発信 <推進プラン事業番号 37-2>

京都の優れた庭園の情報を収集し、ホームページ・広報誌「京のみどり」等において実際に訪れていただくための発信を行った。

- ・平成24年度「京のみどり」4件 ホームページ1件の追加

ウ 庭園文化講座 <推進プラン事業番号 36-1>

日本庭園に関連する「緑の文化」、伝統的技術について理解を深めていただくことを目的に、庭園デザインや関連分野の建築・茶道等の様々な視点から庭園文化を学ぶ講座を2期実施した。

・受講料 7,000 円

① I 期 (第 1 回は 24 年 3 月 21 日) 受講者 38 人 参加者数計 210 人 (24 年度分)

回	開催日	内 容	講 師
第 2 回	4 月 11 日	庭園を構成するデザイン	吉田昌弘 (日本ランドスケープコンサルタンツ協会関西支部長)
第 3 回	4 月 25 日	京都における庭園づくり	井上剛宏 (造園家・京都府造園協同組合理事長)
第 4 回	5 月 9 日	庭園と建物の関係	矢ヶ崎善太郎 (京都工芸繊維大学准教授)
第 5 回	5 月 23 日	華道と庭	笹岡隆甫 (華道未生流笹岡家元)
第 6 回	6 月 13 日	茶道と庭	谷端昭夫 (裏千家学園講師・茶の湯文化学会副会長)
第 7 回	6 月 17・18 日	現地研修 (見学会)	吉田昌弘

② II 期 受講者 受講者 18 人 参加者数計 118 人

回	開催日	内 容	講 師
第 1 回	12 月 22 日	日本庭園の歴史	吉田昌弘
第 2 回	1 月 12 日	庭園を構成するデザイン	吉田昌弘
第 3 回	1 月 26 日	京都における庭園づくり	井上剛宏
第 4 回	2 月 9 日	庭園と建物の関係	矢ヶ崎善太郎
第 5 回	2 月 20 日	華道と庭	笹岡隆甫
第 6 回	3 月 9 日	茶道と庭	谷端昭夫
第 7 回	3 月 24 日	現地研修 (見学会)	吉田昌弘

エ 青島世界園芸博覧会を通じた京都の庭園の情報発信 (日本京都園の意匠・設計提案)

京都市のパートナーシティである中国山東省青島市の青島百果山森林公園で平成 26 年 4 月～10 月に開かれる 2014 青島世界園芸博覧会のテーマ区「国際園」に、日本から京都市及び山口県下関市の 2 市が出展する。京都市は「日本京都園」(仮称)を造園 3 団体及び緑化協会との協力で出展(施工は中国当局。)する計画であり、世界に向けた京都の庭園文化の情報発信事業として、緑化協会が意匠・設計提案を行う業務を受託した。

・日本京都園(仮称)のテーマ 「わが故郷……山紫水明」(武田純氏設計)

II 公園収益事業

決算額 73,797 千円 (予算額 64,166 円)

うち京都市補助金 決算額 0 円 (予算額 0 円)

梅小路公園, 宝が池公園子どもの楽園指定管理業務の中での収益事業, 自動販売機飲料

販売事業、国立京都迎賓館庭園の保全管理業務の受託等を行い、その収益を公益目的事業、及び法人業務の財源とした。

ア 自動販売機飲料販売事業

イ 梅小路公園収益事業（貸室、遊戯用電車、にぎわい創出事業等）

ウ 宝が池公園子どもの楽園駐車場運営事業

エ 国立京都迎賓館庭園維持管理事業

内閣府からの受託事業。京都が長年培ってきた造園技術の集大成ともいえる京都迎賓館庭園について、管理保全指針に基づき、計画的な景観づくりに努めた。

この中で、造園系大学学生（京都造形芸術大学、岐阜県立国際園芸アカデミー、東京農業大学）のボランティア作業（池清掃ボランティア3回）や造園技術者（京都府造園協同組合青年部）の技能研修作業（刈込み・剪定等3回）を受け入れ、池流れの清掃、樹木の剪定等を実施した。

オ 緑のプラットフォーム事業

緑のプラットフォーム（I-1(9)イ参照）に関連し、京都産木材の需要の拡大および京都三山の景観を含む京都の森林保全並びに都市緑化の推進のため、タカラ物流システム株式会社（京田辺市）との間で、同社が販売する京都産間伐材を活用した「木質舗装材ブロック森のれんが」等の普及について情報を提供し、同社から都市緑化活動のための協力金を得る覚書（平成25年3月11日）を交わし、情報提供と普及活動を行うこととなった。24年度中の協力金の実績はなかった。

Ⅲ 法人業務

決算額 14,740 千円 （予算額 14,244 千円）

うち京都市補助金 決算額 0 円（予算額 0 円）

(1) 公益認定の移行及び継続

ア 移行の完了

平成20年に始まった公益法人制度改革は、新しい公共の担い手として、公益性の高い法人に対して税制上の優遇措置を講ずること等により公益の増進及び活力ある社会の実現をはかることを目的としている。当協会は「みどり」という公益性が高い分野で、市民と行政をつなぐ重要な役割を担うため、平成23年度に公益財団法人への移行認定を申請した。京都府公益認定等審議会による審議を経て認定を受け、平成24年4月1日に登記を完了し、移行することができた。

24年度は認定を継続するため、公益目的事業の着実な遂行のための進行管理、透明性の確保等に努めた。

平成22年度以降の移行・認定に係る経過は次のとおり。

平成 22 年度

23 年 3 月 24 日	旧財団第 42 回理事会において新公益法人における最初の評議員候補者の推薦
23 年 3 月 25 日	評議員（当時）で構成する「新公益法人における最初の評議員選定委員会」において最初の評議員を選任

平成 23 年度

23 年 6 月 30 日	認定法における行政庁である京都府へ移行認定申請書提出
23 年 8 月 9 日	申請書の審査開始。以降、申請書の補正・修正の協議
23 年 12 月 14 日	京都府公益認定等審議会において最初の審議。国立京都迎賓館庭園維持管理業務の事業区分等について補正意見
24 年 2 月 1 日	審議会が京都府知事に対し認定基準に適合すると答申
24 年 2 月 29 日	申請書の最終補正・修正提出
24 年 3 月 21 日	京都府知事が認定の決定

平成 24 年度

24 年 4 月 1 日	公益財団法人の設立（名称変更，移行）登記
--------------	----------------------

イ 理事会・評議員会の開催

【理事会】

回	開催日	主要議決事項
第 1 回理事会	24 年 5 月 22 日	平成 23 年度事業報告及び収支決算の件 定時評議員会の招集の件 定時評議員会に提出する理事候補者名簿の件 理事長及び専務理事の選任の件
第 2 回理事会	24 年 10 月 30 日	（報告）平成 24 年度上半期事業・中間決算報告
第 3 回理事会	25 年 3 月 12 日	平成 25 年度事業計画及び収支予算の件 給与規定一部改正の件 評議員会招集の件
第 4 回理事会	25 年 3 月 28 日 （同日の第 2 回評議員会後）	理事長選任の件 理事長の報酬額の件

【評議員会】

回	開催日	主要議決事項
第 1 回評議員会	24 年 5 月 30 日 （※）	評議員の選任の件 監事の選任の件 理事の選任の件（再任） 平成 23 年度事業報告及び収支決算の件
第 2 回評議員会	25 年 3 月 28 日	評議員の選任の件 理事の選任の件 役員報酬規程一部改正の件

	(報告) 平成 25 年度事業計画及び収支予算
--	-------------------------

(※) 特例により、第 1 回評議員会に限り、第 1 回理事会から 2 週間を隔てずに開催。

ウ 役員体制の変更

役員体制は、平成 25 年 3 月 28 日、理事長の村田清理事が退任して、同日、学識経験者の森本幸裕理事が理事長に就任し、新たなスタートを切った。

(2) 新たな会計・税務対応

会計上の公益目的事業の収支相償の原則、公益目的事業比率の確保等を遵守し、また「みなし寄付」等の税制優遇措置を活かしながら各事業を執行するとともに、京都市補助金に過度に依存しない自立的な法人を目指して、公益認定法人としての会計・税務対応に努めた。

(3) 効率的な業務の遂行

平成 23 年度、本部事務所の移転、新たな指定管理業務の受託により 3 事務所体制となったが、効率性の確保のため、各事務所の自立的な運営を行うとともに、所属長会・各種企画会議等の開催による情報共有、事務所間の応援体制により、事業を推進した。

事務所は下表のとおり。

事務所名・所在地	運営開始日	事由
本部事務所 〒605-0071 京都市東山区円山町 463	23 年 4 月 15 日	梅小路公園再整備に伴う移転
梅小路公園管理事務所（緑の館内） 〒600-8835 京都市下京区観喜寺町 56-3	(18 年 4 月 1 日)	(指定管理業務の事務所)
宝が池公園子どもの楽園管理事務所 〒606-0037 京都市左京区上高野流田町 8	23 年 4 月 1 日	指定管理業務の新規受託に伴う開設

(4) 計画的な教育及び研修の実施による職員の資質と能力の向上

各事業で効率的な運営、最大限の顧客満足度の向上を図ることができる職員を養成するため、各分野の外部研修を行った。次期指定管理業務の受託に向けて、自己評価と業務改善を実行できる体制を整える。

- ・派遣回数 8 回 派遣人数 13 人（コンプライアンス、公益法人会計、公園管理実務者会議、関西花と緑の相談所連絡会議研修等）
（平成 23 年度は派遣回数 14 回、派遣人数 25 人）

事業報告の附属明細書について

平成24年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書の内容である「事業報告の内容を補足する重要な事項」はないので、作成しない。